

# 29Q-pm10S

ケナガエサカキ葉部由来の新規配糖体

○阪井 史歩<sup>1</sup>, 杉本 幸子<sup>1</sup>, 山野 喜<sup>1</sup>, 川上 晋<sup>2</sup>, 大塚 英昭<sup>2</sup>, 松浪 勝義<sup>1</sup> (<sup>1</sup>広島大院医歯薬, <sup>2</sup>安田女大薬)

【目的】沖縄は周囲を海洋で囲まれ独自の生態系を持つことから、我が国における天然資源の宝庫となっている。今回の研究で用いたケナガエサカキ *Adinandrayaeyamensis* はツバキ科ナガエサカキ属の植物で、西表島、石垣島のみに分布する固有種であり、これまで化学的研究はほとんどされていない。今回、我々は沖縄県産未利用植物資源の基礎化学的研究の一環として、同植物葉部の化学成分、特に配糖体成分を中心に研究を行ったので報告する。

【方法・結果】ケナガエサカキの乾燥葉(3.73 kg) をメタノールで抽出し、常法に従って溶媒分配を行い、ブタノール可溶画分(119 g)を得た。本画分を Diaion HP-20、シリカゲル、ODS カラムクロマトグラフィー、さらに DCCC および HPLC(ODS) で分離、精製することにより新規化合物(1-2)を得た。化合物 1 および 2 は、NMR を中心としたスペクトルデータの解析によりそれらの構造を決定した。

